地理学会ニュース　2019年度　第3号

法政大学地理学会　2019年12月27日発行

2019年度
法政大学地理学術大会開催について

本年度の法政大学地理学術大会（法政大学文学部地理学科と共催）を下記の通り開催します。

当日は、会員による一般口頭発表・ポスター発表に加え、本年度提出された卒業論文すべての発表および第9回学会賞（最優秀卒業論文賞を含む）の発表が予定されております。

また、大会終了後の懇親会では、第9回学会賞受賞者の表彰も行われます。会員皆々様、万障お繰り合わせの上、市ヶ谷キャンパスに足をお運び下さいますようご案内申し上げます。

なお、プログラムなど詳細につきましては、本会ウェブサイトにてお知らせします。

記

開催期日：2020年2月22日（土）
会場：法政大学市ヶ谷キャンパス富士見坂校舎

＜一般発表の申し込みについて＞

2019年度法政大学地理学術大会での一般発表を希望される会員は、以下にしたがって指定期日までにお申し込み下さい。

1）一般発表には「口頭発表」と「ポスター発表」の2種類があります。ご希望の種別を明示してお申し込み下さい。1人あたりの申し込み数については制限がありませんので、同一人の複数申し込みも可能です。ただし、その場合は、発表ごとに「発表申込用紙」をご提出下さい。なお、下記2）や3）に記すとおり、オリジナルな研究だけでなくさまざまな報告の発表も受け付けていますので、奮ってお申し込みください。

2）口頭発表においては、①自然地理学、②人文地理学に関するものに加えて、③地理教育に関するもの、④その他地理に関係した報告・紹介なども受け付けます。

3）ポスター発表においては、上記①～④に加えて、a）海外調査の紹介、b）社会的活動の紹介・報告、c）研究・教育グループの活動紹介、d）その他本学会活動に関係する紹介・報告などを目的とするものも受け付けます。展示できるポスターは1発表につき1枚とし、大きさはA0サイズ（縦）以下でお願いします。

4）口頭発表・ポスター発表を希望される会員は、本会指定の「発表申込用紙」（学会ニュース本号末尾に印刷されたものを利用するか、本学会ウェブサイトよりダウンロードも可能）を利用し、必要事項をご記入の上、郵便、FAX、メール添付にて下記宛てにお送り下さい。一般発表の申し込み受付は、2020年1月31日（金）までとします。

郵便：〒102-8160 千代田区富士見2-17-1
法政大学文学部地理学科教室内
法政大学地理学会集会委員会宛
FAX：03-3264-9459
e-mail：shukai@chiri.info
（集会委員長・小原丈明）

法政大学地理学会2019年度
第2回例会（巡検）の報告
テーマ：大都市内部の産業地域を巡る

本年度の第2回例会（巡検）は2019年12月14日に、「大都市内部の産業地域を巡る」とのテーマで開催しました。具体的には、東京都台東区（一部、中央区を含む）内のさまざまな製造業集積地域と卸売・小売業集積地域を見学す

ることで、それら集積地域の現状や都市景観への表出を探ることを目的とする巡検です。

暑くもなく、寒くもない絶好の巡検日和の下、28名（学生会員11名、一般会員17名）の参加者は午前10時に南千住駅に集合し、巡検をスタートさせました。まずは、台東区立産業研修センター内にある「皮革産業資料館」に向けて徒歩で移動し、その途中で清川や橋場に立地する製造業の事業所、とりわけ皮革製品製造業の事業所が立地する様子を観て回りました。当日は土曜日であったため、残念ながら、多くの事業所は営業しておらずシャッターが閉じられており、ものづくりの様子を伺うことはできませんでしたが、看板や事業所兼住宅の建物の構造から、それら事業所が集積立地している一端を確認することができたかと思います（写真1）。

写真1　清川の皮革産業の事業所

また、製造業の事業所だけでなく、簡易宿泊所の集積（いわゆるドヤ街）も確認することができ、同地区におけるもう1つの特徴的な都市景観を感じることができました。

皮革産業資料館では、同館の副館長である稲川實氏の講義ならびに資料の解説を伺いました。（写真2）。長らく皮革産業に従事するとともに、台東区における同産業の歴史について研究を蓄積されてきた稲川氏のお話は、史料に基づく客観的な分析と同氏の実体験に基づく主観的な感想・印象が合わさっており、興味深い内容でした。特に、かつての工場の立地に関する旧版の地図資料を用いての説明は、我々地理学に携わる者にとっては非常に親和性の高い内容であり、現在の台東区における皮革産業の由来を理解するのに大いに役立つものでありました。

写真2　皮革産業資料館での稲川氏の解説

皮革産業資料館を出発し、その道中で皮漉き（革を薄く加工する工程）などの皮革産業の事業所や、革の加工に用いるスウェーデン鋼の製造所などの同産業に関連する事業所を確認しつつ浅草方面に向けて再び徒歩で移動しました。事業所の軒先に型抜き後の革の端切れが置かれている様子からも、この地域が同産業の集積地域であることが感じられました。

浅草ひさご通り商店街にて昼食休憩をとり、次にかっぱ橋道具街を見学しました。食器や調理器具、製菓用品の店舗が集積することで有名な同道具街には、それらの製品を求めて多くの人が訪れており、移動するのにも大変な状況でした。行き交う人の様子から、日本人だけでなくアジア系や欧米系の外国人も多いことが伺えます。これらの卸売および小売の店舗では食器が山積みされているだけでなく、普段目にすることのない専門性の高い商品も扱われており、興味がそそられます。そのような景観は独特でインパクトがあることから、特定の業種に特化する集積地域（同業者街）は都市における観光の重要な要素であることが実感させられました。かっぱ橋道具街に詳しい巡検参加者によると、10 年ほど前までは飲食業関連の業者のみを対象とする店舗が多く、人通りは閑散としていたとのこと。近年、この場所が商業地域としての性質を変化させてきたことが理解できます。

次に、地下鉄で移動後、秋葉原駅と御徒町駅の中間に位置し、JR 山手線・京浜東北線の高架下の空間を利用した施設である「2k540」を訪れました（写真3）。同施設はものづくりをテーマとして2010年に開設された商業空間であり、革

写真３　巡検参加者一同（2k540 での記念撮影）

製品や雑貨、アクセサリーなどが販売されています。単なる商業空間ではなく、各店舗では工房も兼ねられており、クリエイターが作業を行う様子を観察することや、クリエイターと会話を楽しむことができ、ものづくりと買い物という台東区の特徴が盛り込まれた場所と言えます。実際に、巡検参加者の中には各店舗を見学しつつ、クリエイターとの会話を楽しんでいた人もいたようです。

秋葉原駅と御徒町駅の間（JR 線の東側）に見られる景観のもう１つの特徴として、宝飾品店が多数立地していることが挙げられます。建物の１階部分には卸売・小売を行う事業所が立地しており、通りを歩くだけでも煌びやかな雰囲気を味わうことができます。設置されている看板を見ると、2 階以上にも関連の事業所（恐らく、宝石の研磨や加工の工房）があることが確認できました。また、英語や中国語、韓国語などの表記も見られ、経営者および利用者ともにグローバルな商業空間であることも実感できました。

御徒町駅から東（小島や三筋）に向かい、そして、南（鳥越や浅草橋）に向かって歩いていくと、その道中でも製造業および卸売・小売業の多くの事業所が見られました。皮革産業や宝飾品関係の事業所だけでなく、印刷関係や金属加工関係、紙・梱包関係の事業所、服飾関係などの事業所も目につき、さまざまな業種の事業所が混在する形で立地している状況が伺えました。さらに、これらの地域ではマンションやホテル、カフェ、コインランドリー、シェアオフィス、日本語学校などの施設の立地も目立っていました。特に、それらの中には外国人（エスニックマイノリティ）を対象とする施設も散見され、特段観光地ではないこれらの地域でもグローバル化の影響が都市景観に現れていることが実感させられました。

また、行程の道中、小学校跡地を活用し、創業後間もないクリエイターを支援するインキュベーション施設「台東デザイナーズビレッジ」に遭遇しました。台東区はこの施設だけでなく、台東区立産業研修センター内にも同様のインキュベーション施設「浅草ものづくり工房」を開設しており、若手のクリエイターの育成に力を入れていることが伺えます。換言するならば、そのような施策を行わないと、ものづくりの技術を継承する人材を確保するのが困難な状況の裏返しであるとも考えられます。これらの施設を見学し、クリエイターの取り組み状況や支援体制について学ぶことができれば良かったのですが、残念ながら、施設の性質上、見学は叶いませんでした。

行程の最後に、日本橋横山・馬喰町の服飾問屋街を見学しました。多くの店舗の入り口には「小売は致しません」との表記があり、また、店舗内や店舗前の道路に段ボール箱が積み上げられている景観も確認でき、巡検参加者は小売店舗とは異なる様態を実感している様子でした。小売も併せて行っている店舗はあるものの、多くの店舗が卸売のみに従事しており、現在でも同地域が服飾問屋街として機能していることが理解できました。一方で、閉店した店舗の区画や、マンションやホテルに土地利用の変更がなされたと思われる区画も散見され、同地域が機能的な変化を迎えつつある状況にあることも確認できたかと思います（なお、同地域のこのような変化をジェントリフィケーションとして捉えている研究があります）。

そして、浅草橋駅周辺の人形類・玩具の店舗集積を見つつ、同駅にて今回の巡検を終了しました（もちろん、巡検終了後には有志（16 名）で今回の巡検の内容について、赤ら顔で議論を深めました）。

今回の巡検では 7km ほど歩くことになりましたが、参加者の熱意と頑張りにより、全員がすべての行程を完歩することができました。また、各自が熱心に見聞きしている様子も伺え、それらの点において巡検としては成功であったかと

考えます。その上で、巡検の企画・担当者としては、今回の巡検が土曜日の開催であったために工場見学の受け入れ先がなく、直接的にものづくりの実態に触れられなかった点や、墨田区など隣接区の産業集積地域も併せて巡検できなかった点が悔やまれます。これらの改善点を踏まえ、いずれの機会に、あらためて同種の巡検を行えればと考えています。

次年度にはフレッシュな会員達による巡検を計画しています。次年度の巡検においても、多くの参加者があることを願っています。

（集会委員　小原丈明・佐々木星弥）

会計委員会より

会費を滞納されている方にお知らせ致します。本会は２年以上滞納されたら納付の督促を行い、３年以上滞納されたら会誌等の発送を停止しております。また滞納期間が５年に達しますと、自動的に除籍する対応を取っております。会員各位におかれましては、住所変更等で学会からの連絡が届かず、結果として会費滞納状態になっている方もいらっしゃると思います。住所変更等がありましたら、かならず学会にお知らせいただきますようお願い致します。

会員動向

【入会】(2019.9.20～12.4 まで。敬称略、申し込み順)

・[一般] 河奥　勇輔（宮城）

住所不明者（敬称略）

阿部智臣、植田　仁、後藤良太、佐藤　功、田口圭子、塚本裕子

上記の方の連絡先をご存知の方がいらっしゃいましたら、学会まで連絡先をお知らせいただきますよう、ご本人さまにお声かけをお願い致します。

法政大学地理学会創立 70 周年記念行事関連

１．記念論文集

(1) 編集委員会　2019. 11. 23 開催

(2) 執筆予定者への確認文書を 12 月 1 日に発送

(3) 今後の予定

・2020. 1. 10～3. 31　出来上がった原稿の収集

・2020. 2. 22　第 8 回編集委員会開催（寄稿済み原稿を確認）

・2020. 4. 1～　原稿の読み合わせ、修正依頼、執筆者とのやりとり、編集作業

・2020. 8 月頃　印刷所へ入稿

・2020. 10～12 月　校正（3 回）

・2021. 1 月上旬　念校、最終校正

・2021. 2 月下旬　法政大学地理学会創立 70 周年記念論文集発刊

・2021. 2 月下旬～　会員へ・学生へ・献本等発送作業

２．地理学研究奨励金

地理学研究奨励金授与選考委員会の論文評価が終わり、選考の結果及び授与金額について、12 月中に決定し、会長に報告する予定。

<<学会ニュース原稿の募集>>

法政大学地理学会ニュースに掲載する原稿を広く会員の皆様から募集しております。原稿のご相談は、下記の連絡先までお願いいたします。

連絡先：庶務委員会(shomu@chiri.info)

2019 年 12 月 27 日発行
編集　法政大学地理学会庶務委員会
発行　法政大学地理学会常任委員会
〒102-8160
東京都千代田区富士見２－17－1
法政大学文学部地理学教室内
Fax.　03-3264-9459
E-mail　hoseichiri@chiri.info
Web　http://www.chiri.info/index.html
郵便振替　00170-9-167442